

浜松町駅直結！
2027年
11月開館！

港区立みなと芸術センター

m ~ m

文化芸術の拠点として2027年11月にオープンする「港区立みなと芸術センターm~m(むーむ)」は、区民の皆さんが「観る」「参加する」「創る」を通じて、文化芸術を体験できる施設です。演劇や音楽、ダンスなどの公演をはじめ、ワークショップや創作活動などで利用できる多様なスペースを備えるとともに、国内外の文化芸術活動を発信します。それらに関わる人材を育てながら、多様な価値観を認め合う共生社会の実現を目指します。ここでは2027年の開館に向けて、港区から新しい文化の流れを生み出すこの施設とプレ事業をご紹介します。



●外観 地上3～9階がセンター部分。

愛称m~mに込められた想い

公募により1,206件の応募の中から選ばれました。ことば、ひびき、デザインそれぞれに想いが込められています。

ことば

mは、minato (港) とme (私) を表し、地域と私の結びつきを表す。

ひびき

「無」から生み出す、「無限大」の可能性を表す。

デザイン

手「m」と波「~」が、人々の関わりと水辺のある港区の情景を表す。

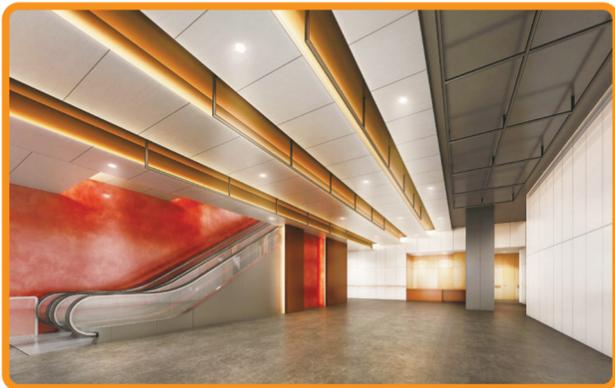


●シアター 1階席(5F)と2階席(6F)がある約600席の劇場。演劇、ミュージカル、音楽コンサート、バレエ、ダンスなどの公演が可能。

浜松町駅から直結！
羽田空港、東京駅、
品川駅からも
アクセス良好です！



● commonspace 可動式で約100席を設置可能。幅広い分野に対応できるホール。

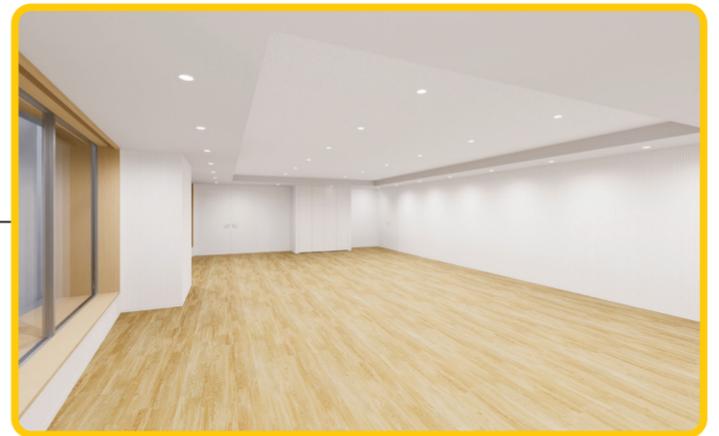


● エントランスホール 3Fエントランス。

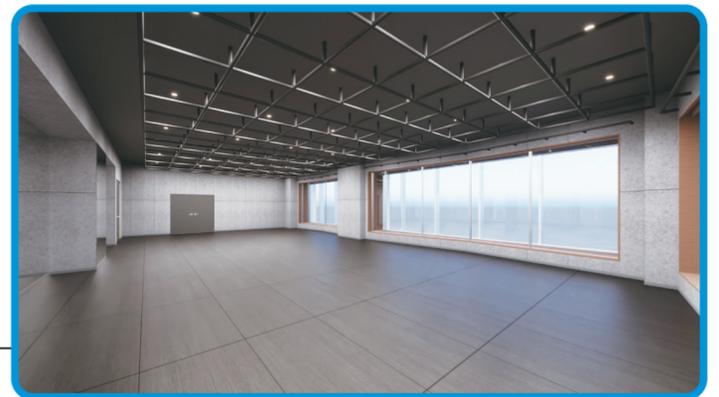
北

9F
8F
7F
6F
5F
4F
3F

南



● アトリエ さまざまな用途に対応できる多目的スペース。



● スタジオ(4室) 防音機能を備えた大小さまざまなスペース。

● ルーム(2室) 個人や少人数の利用に適したスペース。2室を結合可能。

※掲載しているパース図はイメージです。実際の施設と異なる場合がありますので、ご了承ください。

3つの 基本理念

①文化芸術の中核拠点

文化芸術の鑑賞・参加・創造の機会を総合的に提供し、国内外にその活動を発信していく、国際性を持った中核拠点とします。

②専門性とホスピタリティを備え、 育み、自らも成長する

高い専門性とホスピタリティをもって、子どもたちをはじめ、区内の文化芸術に関わる人材を育てながら、施設自体も成長していきます。

③人々に愛され誇りとなる施設

誰もが使いやすく、満足感と充実感を得られる場として、皆さんに愛され親しまれ、誇りに思える施設とします。

港区立みなと芸術センター む む 「開館2年前プロローグ・イベント」

トーク、パフォーマンス、VR、ワークショップ、ウォーキングツアーなどの多彩なプログラムを2025年11月30日(日)に、ニッショーホールにて実施しました。

プロローグ・トークセッション む む m~mとともに育つ、港区と芸術の未来

当日のメインプログラムの一つとして、港区やアートに深い関わりを持つ方々をゲストに迎えたトークセッションを行いました。みなと芸術センター開館準備室プログラム・ディレクターの相馬千秋をモデレーターとして、俳優のサヘル・ローズさん、クリエイティブディレクターの箭内道彦さん、清家愛港区長が、m~m開館に向けた期待や展望を語りました。ここではトークセッションの一部を抜粋してご紹介します。

「m~m」の意味を自分なりに解釈する。 それがすでにアート体験

相馬 みなと芸術センターは、港区の政策のなかでどのように位置づけられているのでしょうか。

清家 港区は文化芸術を非常に重要なものだと捉えています。人々が芸術に触れ、自分自身を表現できる場所を整備するために、2006年に港区文化芸術振興条例を制定し、さまざまな取り組みを行ってきました。このたび開館するm~mはその延長線上にあるものです。いま社会が激しく変化するなかで、文化芸術が果たす役割はとても大きいと思っています。多様な人々をつなげ、お互いに理解し合い、新しいものを生み出せる場所になるよう、区としても準備を進めています。

相馬 次に、みなと芸術センターの愛称を決める選考委員を務めた箭内さん、「m~m」という愛称が決まるまでの経緯を教えてください。

箭内 2025年4～5月に愛称を公募し、1,206件の応募がありました。選考委員は僕を含めて5人です。選考委員会でポイントになったの



は、「港区立みなと芸術センター」に言いたいことは全て含まれている。それをなぞるような名前が愛称にならないだろう、と。もう一つはアートの最先端の場所になるのですから、ある種尖った名前の方がいいと。最終的に決定した「m~m」は、かなり思い切ったネーミングですが、チャーミングでとてもいい名前だと思います

す。まず「m~m」って何だろう？と思わせてくれる。気になったら公式の意味合いを調べてもいいし、自分なりの解釈をしてもいい。芸術のいいところは、さまざまに解釈できることです。この名前をどう感じるか、どう解釈するか自体が、まさにアート体験なんですよ。

相馬 愛称が「m~m」になったと初めて聞いた時、少し驚きました。でも慣れてくると、とても親しみやすい名前ですね。港区の「他にはないユニークなものを創ろう」という気合が感じられて、うれしかったことを覚えています。

芸術に触れる場所が身近にあるのは、奇跡とも呼べること

相馬 m~mの誕生によって港区や社会がどのように変わっていくと思いますか？

箭内 いま、社会は対立・分断という大きな問題を抱えています。それぞれの正義で「Aか？Bか？」の議論をしても、なかなか着地点が見つからない。そこに「Cもあるよ」と示せるのがアートだと僕は思います。行き止まりのように思える難しい世の中において、考えの違う者同士と一緒にいられる場所こそがアートなのだ。そういう意味で、アートの拠点となるm~mは港区だけでなく日本や世界を良くしていく取り組みではないでしょうか。



相馬千秋
(みなと芸術センター開館準備室
プログラム・ディレクター)



サヘル・ローズ
(俳優)



箭内道彦
(クリエイティブディレクター)

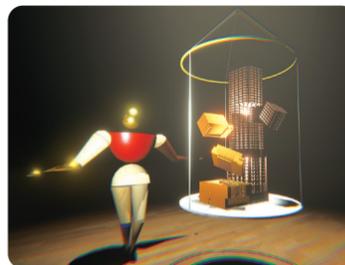


清家愛
(港区長)

VRエンターテインメント

谷口勝也『バーチャル m~m』

世界屈指のVRクリエイター谷口勝也さんが仕掛ける、約10分間の没入型VR体験。VRヘッドマウントディスプレイを装着すると、目の前に木製のブロックでできたm~mが現れます。そのブロックを手で掴んだり動かしたり投げたりできる仕組みに参加者は驚きを隠せない様子でした。やがて地面が巨人の掌へと変わると、参加者は巨人に運ばれながら港区の街を周遊し、m~mの建物の中へ。最後は舞台上に立ち、大勢の観客の拍手を浴びてエンディングとなるストーリーを体験しました。



演劇ワークショップ

市原佐都子『m~mで、も~も』

今、世界から熱い注目を集める劇作家・演出家の市原佐都子さんが考案した、お気に入りのぬいぐるみや人形を持参して一緒に参加するワークショップを開催。悩みやちょっと聞いてほしいこと、普段は言いづらいことも、実はぬいぐるみを通して初対面でも伝え合ってしまう不思議さを取り入れたもの。市原さんがファシリテーターを務める日本語の回のほか、メイ・リウさんがファシリテーターを務める英語の回、中国語の回も実施しました。



レゴ®ブロック・ワークショップ

三井淳平『レゴ® ブロックで m~mを作ってみよう』

世界でたった24人、日本人では唯一のレゴ® 認定プロビルダー 三井淳平さんによる小・中学生向けのワークショップを開催しました。レゴ® ブロックを使って、新しい劇場m~mの可能性を自由に発想し、形にしていけるのが今回のテーマ。参加者の皆さんの集中力がとても高く、会場には熱気が満ちあふれていました。



鈴木優人×鈴木ヒラク『Prologue』

を開催！

サヘル そのとおりですね。エンターテインメントは、人が生きていくうえで欠かせないものです。私は世界中のさまざまな難民キャンプを訪問して、「エンターテインメントに触れる場がある」ことがどれだけ奇跡的なことなのか痛感するようになりました。今日、皆さんがこの会場に来るまでの間、地雷もなく、爆撃もなかったわけです。m~mのように人が自由に集まれる場所が新しく生まれることは、決して当たり前ではないと感じています。

「その人がその人でいられる場所」こそが、まさにm~mの目指すところ

相馬 これからm~mがどういう場所になっていくことを期待しますか？

清家 芸術とは、その人の在り方をそのまま認めてくれるもの。m~mには、さまざまな人が違いを認め合い、新しいものを生み出す場所になってほしいです。

相馬 「その人がその人でいられる場所」というのは、まさにm~mの目指すところ。共生とは、「砂浜」のように誰しもが好きなタイミングで出入りできる形が理想的で、私たちはm~mを「砂浜」のような劇場にしたいと思っています。

サヘル 実は私の名前の「サヘル」は「砂浜」という意味なんです！「砂浜に咲くバラ」で、サヘル・ローズです。

相馬 なんて素敵なお名前！ その話だけで舞台ができそう。

箭内 どれだけ立派な建物ができても、やはり大事なものは中身です。ほかの劇場ではできないような、世界にインパクトを与え続けるプログラムを楽しみにしています。

相馬 サヘルさんは手がけてみたい舞台の構想はありますか？

サヘル 私は難民となってしまった子どもたちから手紙を預かっているんです。いつか、表現を通して子どもたちの声を皆さんに届けたいという目標があります。今日のトークをうかがいながら、その手紙や私が現地地で感じたことをもとに、世界初のドキュメンタリー演劇をm~mで演出できたらいいなと思いました。

箭内 実現しましょう！

相馬 大きな夢が広がりましたね。劇場とは、自分の想像力を違う場所や違う人に乗せられる場所であり、誰かの居場所でもあると思います。開館に向かって2年間、準備室一同頑張りますので応援をよろしくお願いします！



ピアノ演奏とドローイングが共振する、またとない45分間

本イベントの締めくくりは、音楽家の鈴木優人さんとアーティストの鈴木ヒラクさんによる、ピアノ演奏とドローイングのコラボレーション・パフォーマンス。45分の間、何の決めごともない完全なる即興のステージが繰り広げられました。

舞台左側に置かれたピアノで、鈴木優人さんはバッハの旋律を織り交ぜつつ、自由自在に音を紡ぎます。時には鍵盤にペットボトルを置いたり、耳かきで弦を弾いたり、これまで聞いたことのないような音色を生み出す場面も見られました。まるで楽器の新たな可能性を探るような演奏に、会場は驚きであふれ、一音も聞き逃すまいという緊張感に包まれました。

その音楽に呼応するように、舞台右側の鈴木ヒラクさんはドローイングを展開。砂や炭酸水、木の枝などの素材を使い、キャンバスに内なるイメージを刻みます。生み出された造形は舞台のスクリーンに映し出されました。描かれたものだけでなく身体の動きそのものが音楽と溶け合い、観客の心を強く引き込みました。

アフタートークで、鈴木ヒラクさんは「深い好奇心をやりとりする時間だった。優人さんの音楽に触発されて、自分の中からさまざまな表現が引き出された」、鈴木優人さんは「普段は楽譜通りの曲を奏でている自分が、今日はこんなにも自由に演奏させてもらった。いつもと違うことをするのは勇気がある。m~mには常にチャレンジできる場所になってほしい」と語りました。



すずきまさと
鈴木優人(作曲家・指揮者・鍵盤奏者)



すずき
鈴木ヒラク(アーティスト)



宣伝美術：美山有

ウォーク

佐藤朋子『オバケ東京ウォーク：いくつかの塔をめぐるm~mを眺める』 今和泉隆行(地理人) 『裏路地から追いかける街の変化』

ニッショーホール(虎ノ門)からm~mができる浜松町近辺まで、アーティストが案内人となり集団で散策するウォーキングツアーを開催。2つのコースがあり、リサーチをベースとした創作を手掛ける佐藤朋子さんと、地図×アートのスペシャリストである今和泉隆行(地理人)さんがそれぞれ案内人を務めました。近代建築と歴史建造物が混在する港区の街並みから、アーティストがそれぞれ独自の視点で選んだルートを歩き、考察を深めました。



ネットワーキング・テーブル

参加者と開館準備室メンバーと一緒に話し合う

自由なネットワーキングのための企画。プロローグ・イベントの感想を話し合ったり、みなと芸術センターがどのような場所になってほしいか等、参加者と開館準備室のメンバーと一緒に話し合いました。



～砂浜でひとやすみ～出張！みなと commons

どなたでも立ち寄れるプレイスペース

砂浜をイメージした居場所「みなと commons」は、子どもから大人まで、どなたでも立ち寄れるプレイスペース。イベントの合間に休憩したり、見守りパフォーマーと一緒に遊んだり、穏やかな時間が流れました。



撮影：Yutaro Yamaguchi Hide Watanabe(ウォーク)

開館に向けて、さまざまなプレ事業を行っています！

2027年11月の開館に向けて、区民の皆さんとともにプレ事業を展開中！
イベントやワークショップ等を通して、文化芸術の楽しさや魅力に出会える機会が広がっています。
取り組みの詳細については、みなと芸術センターm～mのホームページもあわせてご覧ください。

自由に使える居場所！ 夏休み砂浜開放

砂浜をイメージした旧三田図書館3階にあるスペース「みなとコモンズ」を、2025年の夏休み期間中に、小学生から18歳までを対象として自由に使える居場所としてオープン。勉強や宿題をするもよし、読書やおしゃべりを楽しむもよし。それぞれが思い思いの時間を、自分らしい過ごし方で楽しめる場所として期間限定で開放しました。



開催期間 2025年8月4日～8月29日



港区とその周辺を深掘り！ みなとリサーチコレクティブ

港区とその周辺の文化や歴史、地理、地域課題などについて理解を深め、多様な視点からの気づきを共有する集まりとして、「みなとリサーチコレクティブ」を発足。独自の視点によるリサーチの経験が豊富なコア・リサーチャーを中心に、みんなで集まって港区とその周辺への関心を深掘りする活動を行いました。



活動期間 2025年9月～2026年3月



コア・リサーチャー
佐藤朋子
©大野隆介



コア・リサーチャー
今和泉隆行【地理人】
©おうち まよ



「わたし」の声をめぐるリーディング・ワークショップ

作家・アーティストの小林エリカさんを迎え、リーディング・ワークショップを開催。近作『女の子たち風船爆弾をつくる』（文藝春秋）をはじめ、古典戯曲や歌劇の上演台本等、実際に声に出して読む時間をともにしました。また、作品に込められた問いや背景について、参加者同士で言葉を交わし、考えを深める時間も設けました。



活動期間 2025年9月～2026年3月(全6回)

小林エリカ
(作家・アーティスト)



舞台やアートの体験を共有！ みなとアクティブ・オーディエンス・コミュニティ

区内を中心に行われている舞台やアートの体験を集団で共有し、その経験や感想を創造的に語り合う、観客同士のゆるやかなコミュニティです。毎回の鑑賞前後、ナビゲーターも交えて感想や情報を共有する交流会を行います。鑑賞体験を深掘りすることで、未来の劇場や芸術について語る、独自の視点や言語を育てていきます。



活動期間 2025年11月～2026年3月(全7回)



ナビゲーター 相馬千秋
©NOI CREW



ナビゲーター 山本浩貴
©黒田菜月



2026年3月から開催のプレ事業

みなと芸術センターについて知ろう！話そう！ m～mこねこねミーティング

2026年3月から区内各地で開催予定の「m～m(む～む)こねこねミーティング」。みなと芸術センターm～mがどんな場所になるのかをお伝えするほか、各回ちがったテーマについて参加者同士で話しながらm～mの可能性を「こねる」対話の時間を設けます。どなたでもぜひご参加ください！

こんな人に
オススメ！

- ・ m～mについて知りたい人、気になっている人、誰かと話してみたい人
 - ・ 日常に芸術鑑賞や芸術活動をプラスしてみたいと考えている人
 - ・ 芸術を通して地域の人とつながりたい人
 - ・ 気分転換したい人
- など、どなたでも大歓迎！

開催予定は随時ホームページにて発表します！



みなと芸術センターm～mの最新情報はホームページとインスタグラムでチェック！

問合せ先

みなと芸術センター開館準備室

〒108-0014 東京都港区芝5-28-4 旧三田図書館4階 ☎03(6809)3631(平日9:30～17:00)
Eメール: minato-arts-center@sps.sgn.ne.jp

【発行】公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団(愛称 Kissポート財団)

〒107-0052 東京都港区赤坂4-18-13 赤坂コミュニティぶらざ 2F ☎03(5770)6837 ☎03(5770)6884

ホームページ



<https://www.minatoartscenter.jp>

インスタグラム



MINATOARTSCENTER

フォローは
こちらから！